

企業と公共職業訓練施設が協力して人材育成の役割を担う

職業訓練フォーラム in 北海道を開催

■ 連合北海道が主催し、北海道職業訓練関連労組連絡会が共催する「職業訓練フォーラム in 北海道」が10月28日、札幌市・北海道職業能力開発促進センターで開催された。今回初めて開催する



本フォーラムには、公共職業訓練施設で働く訓練指導員をはじめ、企業、国や道の関係者のみならず、一般の方々も来場。232人にのぼる参加者のもとで、基調講演と「北海道の活性化と人材育成」をテーマにパネルディスカッションが行われた。

■ 主催者の連合北海道杉山事務局長は、「公共職業訓練には雇用のセーフティネットとしての役割

が求められている」と強調するとともに、喫緊の課題である人材不足に触れ、「特にものづくり人材の育成が急務であり、それを担う公共職業訓練の役割は大きい」と述べ、フォーラムでの議論に期待を寄せた。

■ 基調講演は、職業能力開発総合大学校職業能力開発院 谷口雄二教授が「日本の職業訓練の現状と世界から見たこれからの職業訓練の役割とは」と題して実施。谷口教授は、ここ10年にわたる職業訓練受講者の減少傾向について、「受講者数で（職業訓練の必要性が）評価されるが、これで良いのだろうか」と述べた。

また谷口教授は、職業能力をめぐる国際的な様々な概念の変化について説明し、特に「新しい能力としてコンピテンシー（※）が仕事を行う上で大切だという評価がされている」とし、公共職業訓練においても「これまで知識や技能習得に取り組んできたが、それとは違う、チームで取り組む開発課題や本来の職業訓練前に行う橋渡し訓練などはコンピテンシー能力開発の訓練の一環だ」と話した。また、アメリカやイギリスでコンピテンシーを育む仕組みとして徒弟制が再評価されていることを紹介した。



最後に谷口教授は、グローバル化が知識や社会変化を加速度的に進めることで、労働者は転職を複数回経験することが一般的になるとし、「労働者は生涯にわたり学び続けることが求められることから、生涯学習や職業訓練は社会保障という面で重要だ」と述べた。

（※）コンピテンシーとは：単なる知識や技能だけでなく、技能や態度を含む心理的・社会的資源を活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応できる力。例えばコミュニケーション能力やリーダーシップなども含まれることがある。

■パネルディスカッションは、谷口教授をコーディネーターとして、杉本金属工業株式会社(現 株式会社トリパス) 代表取締役 杉本光崇さん、全道庁労連高等技術専門学院評議会議長 野呂敏文さん、雇用支援機構労働組合書記次長 横山真樹さん、株式会社竹原鉄工所専務取締役 竹原慎雅さんの4人をパネリストに実施した。

■「人材をいかに捉えているか」という問いかけについて、経営側の観点から杉本さんは、「生産活動のかなめは人。経営者も社員も同じ目標に向かって進むことが重要」と語り、竹原さんは「会社・仕事を通じて地域や社会を支えているのが人材」と述べた。

■人材の供給側である公共訓練機関の課題について、横山さんはものづくりにおける職業訓練には指導員と訓練機械とカリキュラムの3要素が必要だが、「指導員の数と質の向上が重要だ」と話した。野呂さんは、道立技術専門学院の学生募集に制限があり、学生確保に苦慮している実態を述べた。



■「人材採用に関する最近の課題」

について杉本さんは、技術が日々進歩していくなかで「知識も大切だが、変化に対応する“考える力”が必要で、コンピテンシーはまさにそのとおり」とし、竹原さんは「最近の若者は元気がないという印象。技術よりコミュニケーションなど基本能力を身に付けてほしい」と語った。これに対し野呂さんは、学生との“あいさつ運動”について話すとともに、技能を教える以前に課題があることを話し、「基礎学習に時間をかけたり、訓練を反復して技能を習得させることで学生に自信と意欲を持たせたい」と語り、横山さんも「今の学生はドライバーの使い方をみても、トライアンドエラーを学んできていないことがわかる。こうした体験をやっていくことが必要」と話した。また、以前は経営側が即戦力の人材を望んでいたことについて、杉本さんと竹原さんの両者とも「実践的な技術は会社で教える」と話した。

■最後に、野呂さんは「ものづくり企業に人材を送り込み、経済を縮小しないようにするのは行政の仕事。その意味で道立高等技専など公共訓練機関に人を誘導できるよう募集などを積極的に行うべき。また、人材育成には労力が必要なため指導員の採用もしっかりすべきだ」と話した。竹原さんは「経験したことのない人口減少社会において、人材育成は国づくりだ。産官学の連携、現場の声も聴いて行政が公共職業訓練に力を入れてほしい」と話した。横山さんは「企業の人材育成が厳しくなっているなかで、最後は公共職業訓練施設が重要と考えている。私たちはプロ集団であり自信もある。活用してほしい」と話した。杉本さんは「公共職業訓練機関の卒業生が会社で活躍してくれている。既存の座学・教育には当てはまらないリアルなところで学べるのは大切で、期待している。若者にものづくりへの興味を持ってもらうため、体験会の開催など公共職業訓練施設と協力していきたい」と話した。コーディネーターの谷口教授はシンポジウムのまとめとして、「こういう機会ができたことは、これからの人材育成に重要な視点ときっかけを与えた。地域の人材育成に企業と公共職業訓練機関が協力してそれぞれ役割を担うことが重要だ」と話し、今後の取り組みへの期待を寄せた。